

田原市東海・東南海・南海地震の地震被害想定調査 概要版

1 調査の概要

1 目的

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震を受けて、田原市においても現在の想定よりも大きな地震を想定して被害想定を行い、対策を検討することとなった。

現在、中央防災会議では、「南海トラフの巨大地震モデル検討会」を設置して、新たな想定地震の設定方針、最大クラスの震度分布・津波高等を推計しているところではあるが、喫緊に津波対策を講ずる必要があるため、本調査では、中央防災会議(2003)で示された想定地震のうち、平成17年度調査(※)で対象としなかった、東海・東南海・南海地震の3つの地震が同時に発生した場合の被害の想定を行い、各種地震対策の基礎資料とすることを目的とする。

※想定東海地震、想定東南海地震及び想定東海地震・想定東南海地震が連動する場合について調査

2 想定地震

想定地震は、中央防災会議(2003)による「東南海、南海地震等に関する専門調査会」で設定された東海・東南海・南海地震が同時に発生した場合(M8.7)とした。

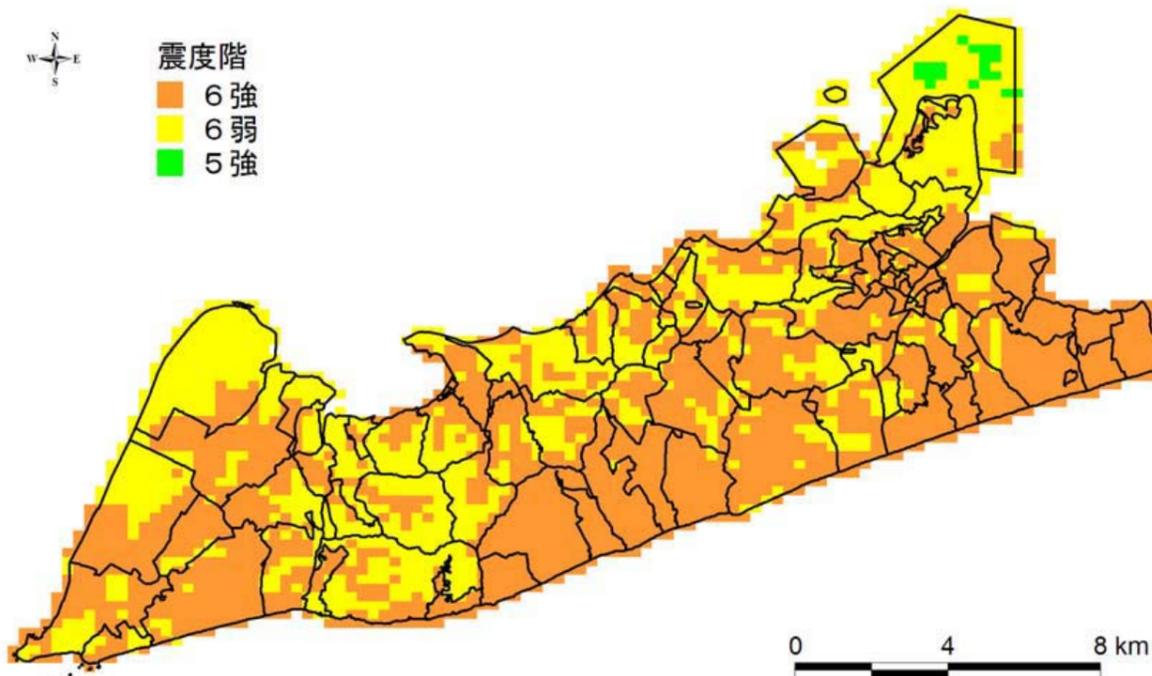
3 調査内容

- ア 地震動・液状化・斜面崩壊の想定
- イ 津波の想定
- ウ 人的被害の想定
- エ 建物被害の想定
- オ 地震火災の想定

2 被害想定結果の概要

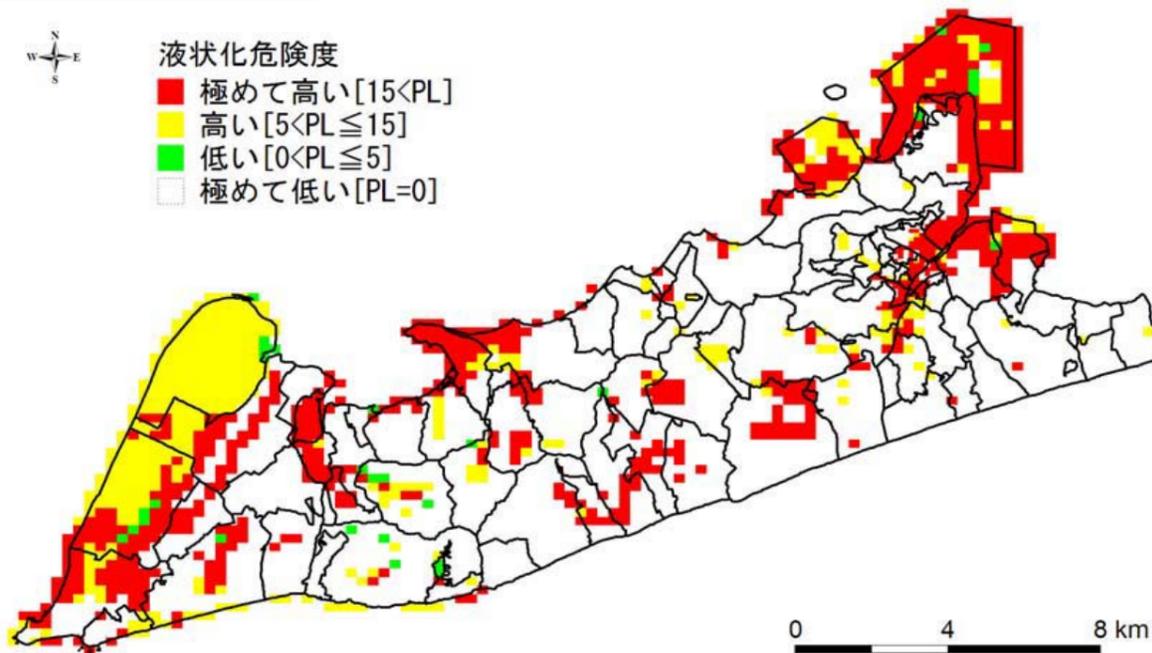
- 1 震度:6弱~6強(一部で5強).....[図1 震度分布](#)
- 2 液状化危険度:埋立地、河川沿いの低地等で危険度が高い.....[図2 液状化危険度分布](#)
- 3 津波浸水域:河川河口、低地を中心に浸水域が拡大.....[図3 津波による浸水分布](#)
- 4 津波の到達時間(50cm):太平洋岸では20分以内、三河湾入り口で40分程度、田原湾入り口で80分程度.....[図4 津波到達時間](#)
- 5 海岸における津波の高さ:海岸線に到達する津波の高さは太平洋岸で4m~9m程度、三河湾では3m程度.....[図5 海岸における津波の高さ](#)
- 6 人的被害(建物倒壊、津波、斜面崩壊、火災)
:死者数約230人、負傷者数約2,080人(冬早朝5時の場合)
- 7 建物被害:(1)地震:大破2,022棟、中破2,344棟、全壊5,362棟
(2)火災:焼失棟数276棟(18時)
(3)津波:全壊47棟、半壊687棟、床上浸水2,078棟、床下浸水2,640棟

図1 震度分布

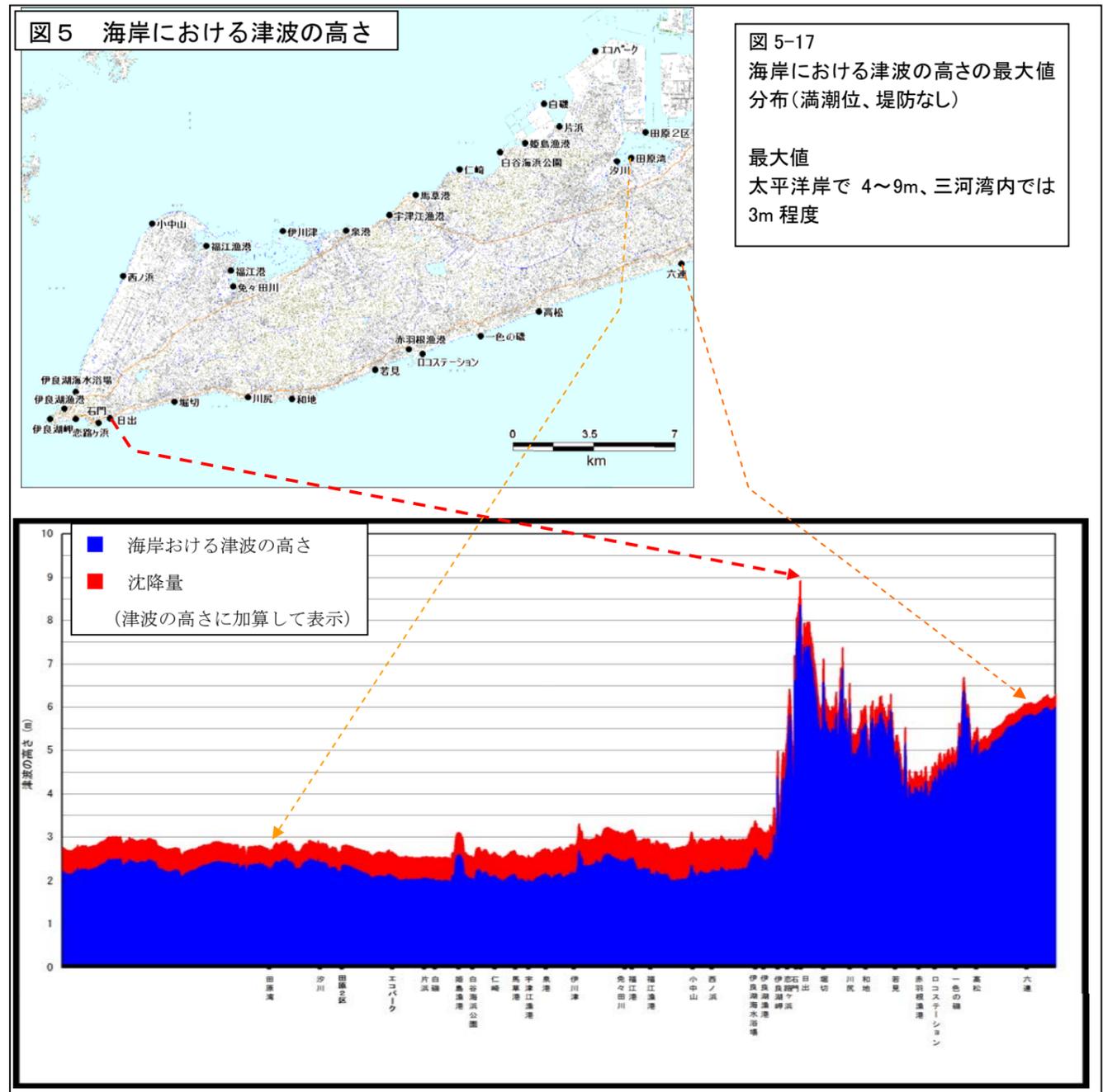
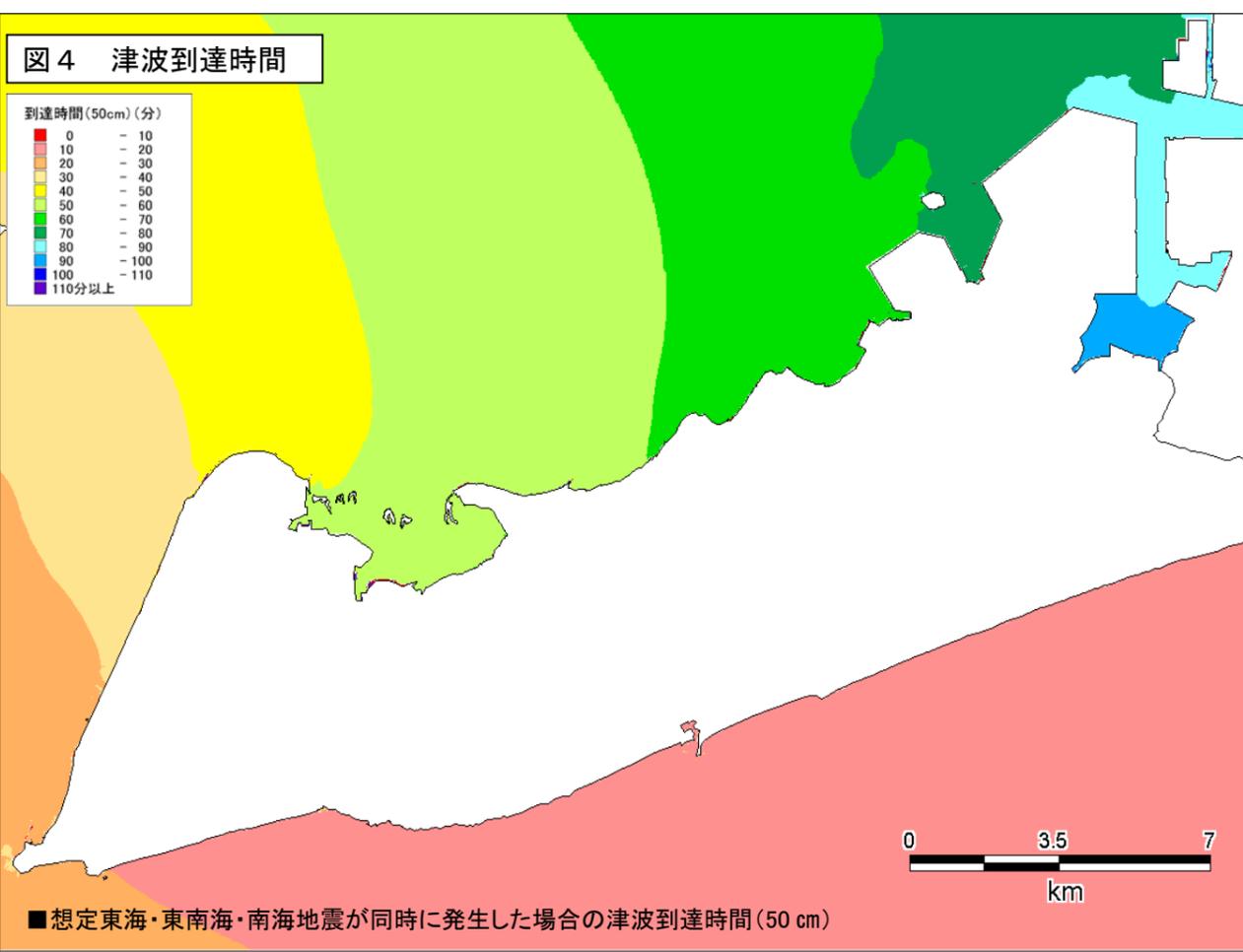
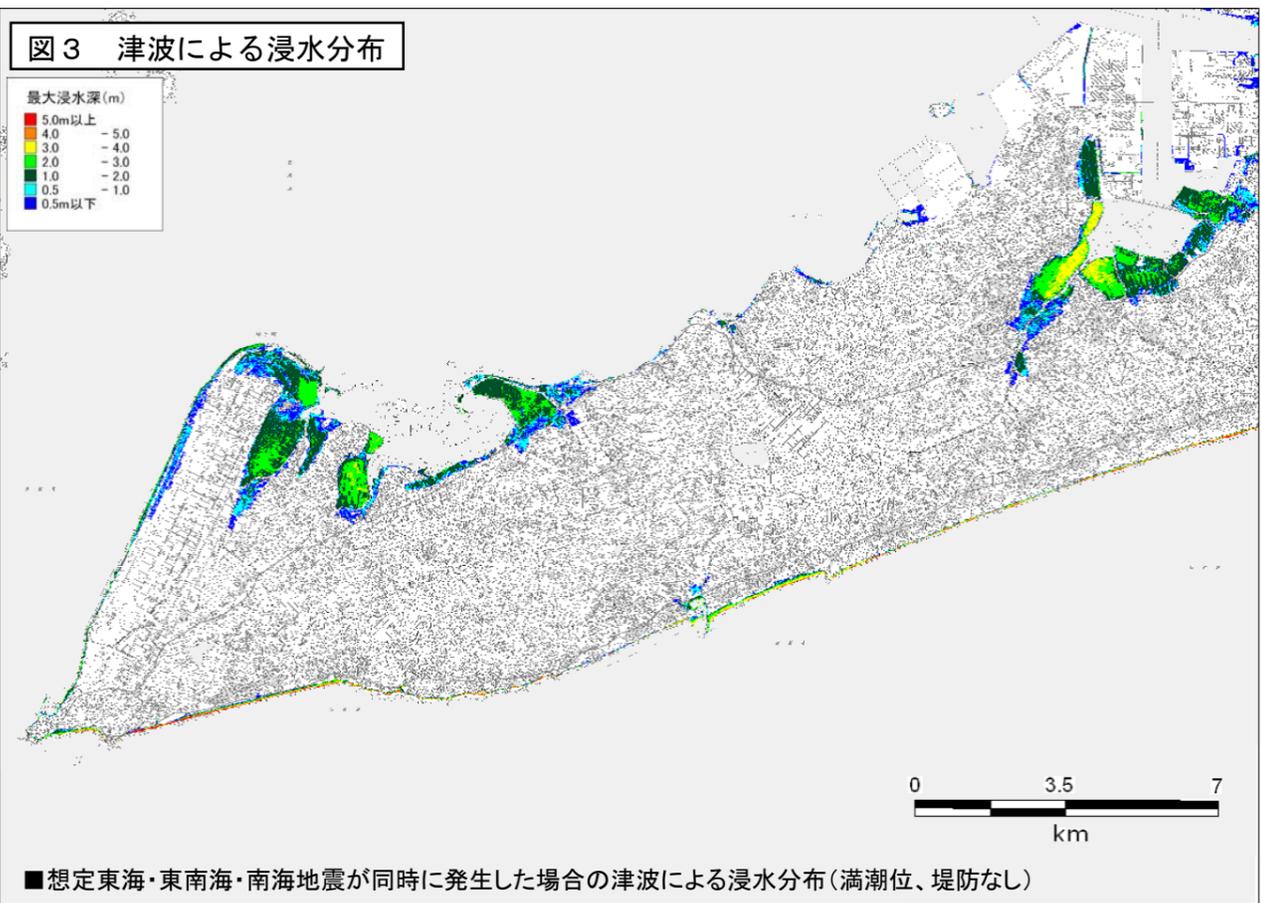


■想定東海・東南海・南海地震が同時に発生した場合の震度分布

図2 液状化危険度分布



■想定東海・東南海・南海地震が同時に発生した場合の液状化危険度分布



- ### 3 被害想定結果に関する留意点など
- 今回の想定地震による被害想定は、百年から百数十年周期で起きる発生頻度の高い地震についてのものであり、今後の海岸保全施設等の防災対策の基礎とするもので、マグニチュード9クラスの南海トラフの巨大地震の被害想定ではない。
 - 今後公表される南海トラフの巨大地震などを含めた国や県の被害想定では、津波による浸水区域の更なる拡大が予想される。
 - 津波による浸水区域以外の場所であっても、安全を確約するものではないので、まずは、避難をすることが重要である。
 - 地震災害は津波被害だけでなく、地震動による家屋の倒壊などの被害も多く予想されるため、家屋の耐震改修や家具の転倒防止などの予防対策が重要である。